



進修の空 2

号外



3.11 忘れてはならないこと

平成23年(2011年)3月11日、午後2時46分。

東北地方太平洋沖で大きな地震が起きました。皆さんも知っていると思いますが、大地震の後に大津波が押し寄せ、たくさんの人たちが津波にのまれて命を落としました。

この大きな地震と大津波による災害を「東日本大震災」といいます。そして今日は「東日本大震災」から10年たった日です。

新聞やニュースでは、3月11日現在、死亡された人は15,900人、行方不明の人は2,525人と発表されています。また、被害に遭われた人のうち、約41,000人が地元や全国各地で避難生活を続けています。私たちの三重県にも移り住んでおられる人たちがいます。

あの日、学校に元気に送り出した小学生の子どもが津波にのまれてしまったお父さんやお母さんがいます。たった一人の親を亡くした小学生、昼ごはんの時に、メールをやりとりした家族や友だちを亡くした人もいます。家族みんなが亡くなって、一人ぼっちになってしまった人もいます。一人生き残った人の中には、避難生活をする中で心や体の病気になられ、亡くなった人もいます。どうして自分だけが助かったのかと自分を責めて苦しんでいる人もいます。たくさんの人たちが、それぞれに、どれほどつらい10年を過ごしてみえたのだらうと思います。

死者・行方不明者は「18,425人」です。一人一人の大切な命の重さ考えた時、あらためて「18,425人」という犠牲になられた人の命の重さを感じ、つらく悲しくなります。しかし、その悲しみの中でも、助かった人たちは力を振り絞り、亡くなられた人の分も命を輝かせて、強く生きなければと立ち上がり、前に進んでいます。夢に向かって勉強し、人の役に立ちたいとがんばっている中学生や高校生、大学生の話題など、このところ、テレビのニュースやドキュメンタリーなどでもその様子がたくさん伝えられています。

そして、コロナ禍にある今を精いっぱい生きていく進修小の私たちも、今日を新しい区切りとして、「生きる」ことをもっと大事にしていきたいと思えます。友だちや家族に、言わなければならないときに、「ありがとう。」「ごめんなさい。」が、きちんと言えるみんなであってください。学んだことを当たり前でできるみんなであってください。その積み重ねがみんなの「命」を守ります。

今日は、家でも東日本大震災のことを家族の人と話してください。時間のある人は、令和3年(2021年)3月11日、今日の夜空を眺めてみてください。10年前のあの日、避難された人たちが凍える寒さの中で眺めた夜空には星々が輝いていたそうです。

陸前高田市
奇跡の一本松
(震災当時)